

福島第一原子力発電所の状況

2017年8月31日
東京電力ホールディングス株式会社

< 1. 原子炉および原子炉格納容器の状況 > (8/31 11:00 時点)

号機	注水状況		原子炉压力容器 下部温度	原子炉格納容器 圧力	原子炉格納容器 水素濃度
1号機	淡水 注入中	給水系：約 1.3 m ³ /h	27.4	1.32 kPa g	A系： 0.00 vol %
		炉心スプレイ系：1.5 m ³ /h			B系： 0.00 vol %
2号機	淡水 注入中	給水系：約 1.4 m ³ /h	33.7	3.36 kPa g	A系： 0.02 vol %
		炉心スプレイ系：約 1.5 m ³ /h			B系： 0.02 vol %
3号機	淡水 注入中	給水系：約 1.6 m ³ /h	31.6	0.29 kPa g	A系： 0.02 vol %
		炉心スプレイ系：約 1.5 m ³ /h			B系： 0.01 vol %

[2号機] [3号機]

・原子炉注水設備については、給水系及び炉心スプレイ系(CS系)にて原子炉注水(総注水量:3.0 m³/h)を行っているが、今後、CS系配管の信頼性向上対策として、ポリエチレン管への取替工事を予定。その際、CS系による注水を停止して、給水系で全量注水する対応が必要となるため、事前に給水系での単独注水試験を実施し、原子炉の冷却状態に異常がないことを確認し、試験終了後は試験前の原子炉注水量に戻す予定。なお、監視パラメータに温度上昇等の異常を確認した場合には、注水量を増加させる措置を行う。

CS系から給水系への乗せ替え操作、および給水系からCS系への戻し操作予定は以下のとおり。

< 2号機CS系から給水系への乗せ替え操作および影響確認 > (8/22 ~ 8/29)・・・実施済

CS系原子炉注水量: 1.5 m³/h 0 m³/h 給水系原子炉注水量: 1.5 m³/h 3.0 m³/h

< 2号機給水系からCS系への戻し操作および影響確認 > (8/29 ~ 9/4)・・・実施中

CS系原子炉注水量: 0 m³/h 1.5 m³/h 給水系原子炉注水量: 3.0 m³/h 1.5 m³/h

< 3号機CS系から給水系への乗せ替え操作および影響確認 > (9/5 ~ 9/12)

CS系原子炉注水量: 1.5 m³/h 0 m³/h 給水系原子炉注水量: 1.5 m³/h 3.0 m³/h

< 3号機給水系からCS系への戻し操作および影響確認 > (9/12 ~ 9/19)

CS系原子炉注水量: 0 m³/h 1.5 m³/h 給水系原子炉注水量: 3.0 m³/h 1.5 m³/h

< 2. 使用済燃料プール(SFP)の状況 > (8/31 11:00 時点)

号機	冷却方法	冷却状況	SFP 水温度
1号機	循環冷却システム	運転中	34.5
2号機	循環冷却システム	運転中	41.9
3号機	循環冷却システム	運転中	29.3
4号機	循環冷却システム	運転中	29.1

各号機 SFP および原子炉ウェルヘドラジンの注入を適宜実施。

[2号機]

・2017/8/21 使用済燃料プール(SFP)水温評価の妥当性および外気温が上昇する夏季におけるSFP水温を確認するため、SFP循環冷却系の一次系の運転を継続した状態で、熱交換器の二次系冷却水の通水を停止する試験を開始(試験予定期間は:8月21日~9月下旬頃まで)。10:59に熱交換器の二次系冷却水の通水を停止し、冷却を停止。冷却停止時のSFP水温度は30.0。

[5号機]

・2017/6/29 使用済燃料プール冷却浄化系(FPC系)にて冷却している使用済燃料プール(SFP)について、FPC系を冷却している原子炉補機冷却系の弁点検を行うため、SFP冷却をFPC系から残留熱除去系(RHR系)に切り替え。切り替えの際にSFP冷却が一時停止。原子炉補機冷却系の弁点検が終了した段階で、SFP冷却をRHR系からFPC系に戻す予定。

< 3. 水処理設備および貯蔵設備の状況 > (8/31 11:00 時点)

設備	セシウム吸着装置	第二セシウム吸着装置(サリー)	淡水化装置(逆浸透膜)	淡水化装置(蒸発濃縮)	多核種除去設備	増設多核種除去設備	高性能多核種除去設備
運転状況	停止中 ^{*1}	停止中 ^{*1}	水バランスをみて断続運転	水バランスをみて断続運転	ホット試験中 ^{*2}	ホット試験中 ^{*2}	ホット試験中 ^{*2}

*1 フィルタの洗浄、ベッセル交換を適宜実施。 *2 高性能容器(HIC)交換等を適宜実施。

・2017/8/18 第二セシウム吸着装置を停止。当該装置停止期間：8月18日～9月5日

当該装置が停止する期間については、運転上の制限を満足できない状態であることから、特定原子力施設に係る実施計画「特定原子力施設の保安」第1編第32条(保全作業を実施する場合)第1項を適用し、必要な安全措置を定めた上で、計画的に運転上の制限外に移行し、1～4号機タービン建屋地下階の滞留水を直接汚染水処理設備へ移送する系統の設備工事を実施。

< 4. その他 >

・2014/6/2～ 陸側遮水壁工事を開始。

2016/3/31～ 試験凍結において、ブライン(不凍液)循環設備の健全性の確認等ができたことから、凍結運転(第一段階:1～4号機の海側全面と山側の一部の凍結)を開始。

12/3～ 陸側遮水壁山側の未凍結箇所7箇所のうち2箇所(1号機西側・4号機西側の一部)について、凍結運転(第二段階)を開始。

2017/3/3～ 陸側遮水壁山側の未凍結箇所5箇所のうち4箇所(1号機北側・1号機西側・3号機西側・4号機南側の一部)について、凍結運転を開始。

8/22～ 陸側遮水壁山側未凍結箇所1箇所(2号機西側の一部)について、凍結運転(第三段階)を開始。

・2015/5/27～ 構内で今後使用しないフランジボルト締めタイプのRO濃縮水貯槽の解体作業を開始。

・2017/8/31 2013/11に使用済燃料共用プールに貯蔵している使用済燃料を輸送貯蔵兼用キャスクに装填した際、装填の可否を確認していない使用済燃料を4体装填していることを2017/8/30に確認。

当該キャスクについては、現在、乾式キャスク仮保管設備に保管しているが、燃料装填後からキャスクの蓋間圧力、温度およびエリアモニタ指示値に有意な変動は確認されていない。

なお、装填の可否を確認していない使用済燃料(回収ウラン燃料)は、ウラン燃料と核種組成は異なるものの、通常のウラン燃料と同等に取り扱えるもの。今後の対応については、現在検討中。

使用済燃料を再処理施設で再処理し、転換・濃縮を行い成型加工した燃料

・2017/8/31 14:49に発電所構外協力企業棟脇の企業バス待合所前において、協力企業作業員の方が倒れているのを発見。緊急搬送の必要があることから、15:00に救急車を要請。心肺停止状態で、入退域管理棟救急医療室にて心臓マッサージおよびAEDにより処置を実施。15:36に救急車にて南相馬市内の病院に搬送。

【3号機燃料取り出し用カバー等設置作業】

・2017/1/17～ 使用済燃料プールにて保管している燃料取り出しによる福島第一原子力発電所のリスク低減に向けて、燃料取り出し用カバー等設置作業開始。

7/31～ 燃料取り出し用カバードーム屋根の吊り上げ、組み立て作業開始。

【サブドレン他水処理施設の状況】

・2015/9/3～ サブドレン他水処理施設運用開始。

・サブドレン他水処理施設一時貯水タンクAの分析結果[採取日8/26]について、運用目標値を満足していることを確認したことから、8/31 11:07～海洋への排水を実施。

・サブドレン他水処理施設一時貯水タンクBの分析結果[採取日8/27]について、運用目標値を満足していることを確認したことから、9/1 海洋への排水を実施予定。

・2017/8/2に発生した4号機原子炉建屋南西側に設置しているサブドレンピットNo.51の水位が一時的に低下した事象について、8/3以降、4号機原子炉建屋および廃棄物処理建屋近傍のサブドレン水の分析を実施。

8/29、30採取分について、前回の分析結果と比較して有意な変動はなし。

【地下水バイパスの状況】

・地下水バイパス揚水井No.1～12のサンプリングを継続実施中。

・地下水バイパス一時貯留タンク分析結果(Gr1)の分析結果[採取日8/24]について、運用目標値を満足していることを確認したことから、8/31 10:02～海洋への排水を実施。

【1～3号機放水路の状況】

1～3号機放水路については、1号機放水路上流側立坑および2号機放水路立坑において、セシウム137の濃

度が上昇したことから定期的に水質調査を実施。

<最新のサンプリング実績>

・至近の測定結果と比較して大きな変動は確認されていない。

[H4,H6エリアタンク周辺観測孔(周辺排水路含む)の状況、タンクパトロール結果関連]

<H4・H6エリア周辺、福島第一構内排水路・南放水口のサンプリング実績>

・至近の測定結果と比較して大きな変動は確認されていない。

[タービン建屋東側の地下水調査/対策工事の実施状況]

<地下水観測孔・海水サンプリング実績>

・至近の測定結果と比較して大きな変動は確認されていない。

[地下貯水槽からの漏えいに関する情報および作業実績]

<最新のサンプリング実績>

・地下貯水槽周辺の観測孔全ベータ放射能が上昇した件、および地下貯水槽 i 南西側および北東側の漏えい検知孔水において全ベータ放射能が上昇した件について、8/30 に採取した水の全ベータ放射能分析結果は、至近の分析値と比較して有意な変動は確認されていない。引き続き、地下貯水槽および周辺の観測孔について監視を継続する。

以上